（別紙3）　　平成　24　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0991300153		
法人名	社会福祉法人エルム福祉会		
事業所名	グループホーム　たじまの杜		
所在地	栃木県那須塩原市二区町500番5		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人　栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6　とちぎ福祉プラザ3階　（とちぎｿｰｼｬﾙｹｱｻｰﾋﾞｽ共同事務所内）
訪問調査日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ソフト面にとして・・・スローガンを5つ掲げ、マナー研修を職員に受けてもらい、快いあいさつ、話し方に気をつけ、〝お年寄を人生の先輩として尊敬する〟姿勢を徹底して、業務に携わっている。家庭的な雰囲気を重要視し、寄り添った支援・介護を行っている。

・ハード面として・・・恵まれた自然を生かし、建物の設計（暖炉や有線放送、家事動線や介護動線等）やインテリアデザインにもこだわりを持った。利用される方も職員も居心地の良い場所となるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

①. 開設1年目の事業所です。しっかりした考え方に支えられたサービスの提供支援がなされています。5つのスローガンを掲げ、研修を通して職員の質の向上を図るとともに、定期的な会議等では、意識を高め考えを共有する場として話し合い、実践につなげています。 ②. 恵まれた自然環境を十分に生かしています。自然豊かな庭や森の中で心地よい音楽が流れている居心地の良い住まいとして、また職員が働きやすいように設計され、理念に沿って運営されている事業所です。③. 事業所は地域や市と密接にかかわるとともに、利用者の住み慣れた地域との関係を大切にした支援がなされています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つのスローガンを職員全員が暗唱しており、毎週月曜日の朝と全体職員会議にて必ずスローガンを声に出している。全員で大きな声で暗唱することにより、その意味を再確認している。	開所前より職員研修を開始し、事業所の在り方等話し合いが行われています。理念としての5つのスローガンを掲げ、朝礼や会議で唱和する等職員一人ひとりが意識し共有するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設長は、地区の福祉協議会のボランティアに加入し、地域の一人暮らしの方への「友愛訪問」に参加したり、組内のゴミ拾いなどの清掃活動にも参加している。その関係で、地区の方が「そば打ち」をしに来て下さるなど、訪問して下さる機会が出来た。	地域の活動に職員が参加するとともに、利用者主体の地域との付き合いを考えています。町の公民館に利用者の作品を出品しています。来年は利用者の好きな（地域の）盆踊りに参加したり、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方によるホームのコンサートには、家族や地域の人を招待し交流を深めようとしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が外出する場所(教会・公民館・生け花教室）において、私共の支援の仕方などを通して、認知症の方への対応を説明する機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、利用者の状況・行事などを説明した上で、委員の方からの助言や協力を得ている。その結果を職員会議にて発表し支援の向上を心がけている。	参加メンバーは充実しています。運営やサービス方針に沿った、日々の活動内容、利用者の状況などが報告されています。会議では質問や意見を受けるなど、支援の向上につながるように、双方向的な運営がされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取り合っており、対応の仕方・書類に関する質問などに答えて頂いている。又、月に1回利用状況を市へ報告している。運営進会議にも市の職員に毎回参加していただいている。	運営推進会議や地域密着型連絡協議会に参加して市や地域包括の方との連携を図っています。利用者や書類作成に関する質問等何でも相談出来る関係が出来ています。。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳に配慮し身体的拘束をしないケアに努めているが、具体的な方針について明文化し、書面での配布、勉強会などで周知する必要がある。	身体拘束をしないケアについて規定するとともに、勉強会を、法人内で計画しています。利用者が外出しそうなときや徘徊時には、さりげなく声を掛けたり一緒についていくなど、見守りを基本に、出来る限り自由な行動を支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人権委員会を設置しているが運用が不十分であり、今後資質の向上を図る上でも整備していく必要がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は3月に行われる成年後見制度活用講座を受講する予定であり、その内容を全職員に内部研修として学ぶ機会を持つことにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1時間程度の時間をかけて説明し、又、質問等がある場合にはその事に対して答える時間も取っているため、理解、納得は得られていると思っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」を設置し、利用者・家族・外部の方、職員などさまざまな方からの意見が反映出来るようにしている。「食前の祈りに対してもっと丁寧に行ってほしい」との利用者よりの意見を頂き、早速職員会議にて徹底した。	外泊面会が頻繁にあり、家族の意見を聞く機会が多く有ります。個別意見に対する対応のほか、盆踊りがやりたいと言う利用者の話から、事業所内での盆踊りを実施しました。つるし雛作り等も利用者の要望により実施しています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日に職員会議を開いており、職員からの意見を聞く機会を設けている。	業務ミーティング、ケース会議を毎週行っています。木曜日のケース会議時には、見守りが手薄になるとの職員の提案により、映画鑑賞のある水曜日に変更するなど、職員からの提案は職員会議で検討し、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や資格取得に対する補助制度の導入により職員の質の向上も含めた就業環境の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では「口腔ケア研修」や感染症予防研修」を定期的に実施している。外部研修にも積極的に参加してもらい、スキルの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高根沢にある「宝夢」様へ職員研修として6名の職員を派遣し、職場の雰囲気や対応を学ぶ機会を持った。那須塩原市の地域密着型事業所連絡協議会に参加し、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの話を十分に聞き取り、やりがいなどを計画にもり込み、本人の思いを出来るだけ実現さ出来るよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話しに時間をじっくりかけて聞くことにより、家族の困っている事、要望を把握するよう努め、又、事業所としてどれだけお手伝い出来るかを検討し、伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の生育、これまでの生き方、現在の状況、御家族様の要望など、よく情報を把握しスムーズに支援に入れるよう工夫し、その後については本人の様子を見ながら支援の方向性を検討できるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の気持ちを重要視し、尊重しながら家庭的な関係が出来るよう、日々取り組み、反省を生かしている。職員間での話し合いは密に行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された際は、事業所での様子を出来るだけ説明し、意思の疎通を大切にして会話を多く持つようにしている。又、電話連絡も密にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会に通っている方や生け花教室に通っている方もおり、そこでの交流を通して本人様の生き生きとした姿が見られる。	入所前に通われていた場所に復帰できるような支援がされています。入所してから参加を控えていた教会の集会に参加するようになり、賛美歌が歌えるようになりました。教会に通えるようになった方や、生け花教室に通っていた方を、習い事等が継続できるように支援したり、理美容についても同様の支援がされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は良いが、なかなか中に入っていけない利用者様に対しては職員が間に入って会話を成り立たせたり、レクリェーションの場で関わるタイミングを見ながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHより特養へ移られた方が1人いる。関わりはない状態である。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を聞いて、実現できるよう支援している。盆踊りをしたい→9月末に実施。句会をしたい→毎月実施。書道がしたい→書き初め実施。	本当に望んでいることは何かを見極めることから始めています。言葉に表せない人には、日常の様子から楽しめることを見つけ支援しています。利用者本人と家族の意向に相違がある場合には、調整しながら、本人本位の支援がされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりとよく話をし、その会話の中から本人の生活歴、暮らし方を探り、職員間での気づきを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリェーションなどを行う際は全員に声かけするが、その時々の利用者様の気持ちを大切にし、促しはするものの参加は自由にしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週水曜日にカンファレンスを開きチームケアを確認している。また、毎月介護サービス計画書を見直しケアのあり方についてきめ細やかな対応をしている。	個別支援計画は、サービスの内容ごとにその人に合った目標を設定し、定期的に担当者による会議やモニタリングが行われています。又達成度を確認しながら計画の見直しをするようにしています。	継続性を意識した支援計画となるように、計画・実施・評価そして・再計画へと繰り返す流れの管理が容易に見えるような様式等の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録と健康管理表及び業務日誌にてを詳細を記入し、出勤時目を通し、捺印をすることを徹底しており、一人ひとりの現在の体調・状態を確認し、支援や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況・要望などに合わせて、通院支援・買い物支援・帰省支援など柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生け花教室への送迎、教会への送迎・引率散歩への同行など、本人様の意にそえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はそのまま継続とし、付添や通院支援時は看護師や職員が対応し医師との連携を取っている。	今までのかかりつけ医に受診の際は、健康管理表等のデータをコピーして渡すようにしています。家族対応が困難な場合は、看護師や職員で通院支援をしています。点滴に通うか入院かの状況になった利用者を、看護師と管理者で連日送迎して、入院にならずに済んだこともあります。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化の際や夜間であっても、看護師に連絡をとり、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	那須中央病院のMSWや、国際医療福祉大塩谷病院の作業療法師と情報交換や相談に努めている。特に、協力医療機関である那須中央病院のMSWとは密接に連絡をとっている。利用者の入退院の際には、病院のMSW、NS、Drとの情報を共有して安心して入退院出来る様心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、現在家族と話し合いがはじまった段階である。	現状は関係者(家族、事業所、医療関係者)の意向や対応について様子を見ている段階であり、医療との連携を模索しているところです。	今後重度化する利用者の存在を考慮して、看取りに関する対応指針を明らかにして行かれることを期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実施の時期内容などを含め今後の課題としたい。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施したり、非常用の食品などを備蓄している。地域との協力体制は不十分であり、今後連携をとっていく必要を感じている。	10月に消防署と連携した消防訓練を実施しており、今後夜間を想定した訓練も予定しています。休日職員をも含め連絡網を整備したり、防災委員会にて入手した防災グッズリストを参考に備蓄も実施しています。	地域との協力関係を深めるために、地域の災害時には避難拠点としての利用等、双方向的な協力体制作りを期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援におけるNot to do リスト「1．無視しない。否定しない。からかわない。」「2．おこらない。しからない。大きな声を出さない。」「3．子供扱いしない。ため口をきかない。」を徹底している。	言葉使いに注意するとともに入浴、排泄など、同姓介護に配慮しています。排泄時の見守りも、そっと気づかれないようにしたり、失敗した時も「大丈夫です。」とさりげなく後始末を済ませています。入室の際はノックして許可を得てからを徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が多すぎて自己決定は難しい場合は、本人が望むであろう事を2・3の中から選んで頂き、自分で決定する喜びを生活の中で多く持ってもらっている。（ビンゴゲームで景品を選ぶ・カラオケで何を歌うかなど）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などは予定通りに入浴出来なくても、それに対応する。時間通りに出来なくても時間に追われるような対応はしないなど、職員が気持ちに余裕をもち、〝～しなければならない〟と思いすぎないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出前や入浴後などにお化粧の支援をしている。原則的に本人の意向に沿うように支援しているが、状況に応じて常識的な身だしなみやお化粧を促すこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的なキッチンで調理しており、音や香りを楽しんでもらえるよう配慮している。職員がサポートして自主的に調理や配膳をされる利用者もいる。また車椅子の方でも参加できるよう高さを調整した流しを整備している。最近では皆でしもつかれを一緒に作った。	テーブル拭き、下膳など、能力に応じた手伝いをサポートしたり、カウンター脇のボードに、メニューの詳細を大きく書き出す等、食事への関心に配慮しています。また好き嫌いに配慮して代替食（海苔の佃煮など）が用意されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表をつけ、食べる量、水分量を記入し、排尿、排便との関係、体調との関係性を把握するよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにより一人ひとりご自身で口腔ケアを行い、状況により職員が支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居前の環境を把握し、トイレの場所によって居室の変更をした。和式トイレの習慣がある方の支援を試行錯誤しながら工夫している。利用者の尊厳に配慮した声かけを心がけ、見守りをするよう努めている。	殆どおむつの使用利用者はいないが、夜間のみ本人の希望でオムツをしている利用者がいます。安心感が得られ安眠できているとのことです。職員の手を煩わせるのは申し訳ないと遠慮する利用者には、パターンを把握し声を掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記入し排便確認をしながら、ヨーグルトやオリゴ糖を入れた飲み物を提供したり、病院から処方されている薬を服薬している。毎朝９:３０～ラジオ体操第１、２を個人のペースに合わせて全員で行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ1日おきには入浴して頂けるよう声かけ促しをしているが、本人が希望しない時は、次の日に再び声かけし、無理強いはしないように努めている。	毎日、午後の2時から4時の時間帯を基本に入浴出来るようにしています。入浴を拒む場合は、無理をせずに翌日また声をかける等で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意に沿って支援し、又、促しによって就寝誘導を行っている。決して無理強いはせず、ホールで過ごされる場合もある。また職員と会話することで、心が満たされ、安心して就寝される方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の付き添いや、家族からの報告により、服薬ファイルを作成し、変更があった時はその都度職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人の趣味で終わるのではなく、その趣味を皆で挑戦したりしている（句会を行うなど）。絵手紙、貼り絵、カラオケ、ラジオ体操、映画鑑賞会、外出などを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞いて外出はなかなか難しいが、可能な状態の時は出来るだけ支援できるよう工夫している。 紅葉狩りをしたい→11月2か所へ外出 つるしひなを見たい→2月に実施	天気の良い日は恵まれた敷地内での自然を楽しみながら散歩しています。週1回は飲み物を買いに近くのスーパーに行きます。バスを利用し季節を楽しむ遠出も行われています。羽田沼の白鳥が見たいという利用者を伴って行ったが、みやこタナゴ生息地のために餌付けが禁止され、白鳥の飛来が無く、残念ということがありました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、自宅から持参されたお金は御家族に納得して頂き、御本人様管理にしている。自動販売機でジュースを買ってくるなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な利用者には、本人自ら電話をしたり手紙のやり取り等の支援をしている。また新聞社に投句をしている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	インテリアデザインを工夫している。暖炉のある共同の空間では利用者様にとって居心地がいいものだと思われる。有線放送を流すことでリラックス出来たり、配慮された庭の景色で季節感を味わってもらっている。	暖炉が配置された広間や共有空間は、落ち着いた色調の壁や床、年代物の調度品が置かれ、採光もよく、あたたかな雰囲気が感じられます。窓から見る日本式庭園は春になると疎水が流れ、四季折々の変化を楽しめる等、自然豊かな環境づくりがされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	セカンドリビングを作り、一人でテレビを見ている利用者様もいらっしゃる。又、暖炉には自然に人が集まってくる。あたたかい火を見ながらうたたねをする方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んで使われている。	各個室は、覚えやすいように地番が付され、名札が掛けられています。部屋には使い慣れたものがおかれています。 トイレに向かう利用者の行動を観察し部屋を反対側に変えたところ、夜間の失敗が無くなった等、職員の気付きの大切さを実践しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が把握しやすいようにトイレサインを表示したり、各居室を「番地」表示することにより認知症の方への空間認識の支援をしている。		